

茨城大学発 持続可能な世界へ ポスター展2016へようこそ！



ICAS機関長
人文学部教授
伊藤哲司

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
在学生の皆さんもようこそ。

ご存じの通り、地球温暖化をはじめとする環境の大きな変化等が私たちにもたらす問題の数々は、**人類共通の課題**です。それらの問題の多くは、私たちの人為的な活動がもたらしたものであります。**地球システム、社会システム、人間システム**のすべてが関係するこの諸問題の解決は、ひとつの学問分野の取り組みでは、とうてい叶いません。そのような認識とともに21世紀になって生まれたのが、**サステナビリティ学（Sustainability Science: 持続可能性科学）**です。

この超学際的な分野に取り組むため茨城大学では、2006年5月に**地球変動適応科学研究機関（Institute for Global Change and Adaptation Science: ICAS）**を立ち上げました。全学部から50人を超える参加教員を得て、「地球変動」の問題を軸に、さまざまな持続可能性の追究に取り組んでいます。またICASは同時に、学内の**サステナビリティ学の教育**も担っています。

今回展示したのは、年度末に毎年行っている学生・大学院生の研究発表の場である「**学生サステナ**」（**ICAS主催で2016年3月15日に開催**）で発表されたポスターです。どれも、みんなの先輩たちによる研究の成果や活動報告です。その研究活動の熱い息吹を感じ取ってください。

大学は「勉強」ではなく「学問」をするところ。「自ら問うて学ぶ」のが学問です。それは**自分が変わっていくこと**でもあります。ぜひみなさんも、そんな学びの対話のなかへ。大いに歓迎します！



茨城大学長
三村信男

サステナビリティ学は、茨城大学も加わって、10年前に誕生しました。地球 環境と私達の社会の持続性をいかに確保するかを探求する学問であり、対象は温暖化や資源・エネルギー問題などの地球規模の課題から震災復興などコミュニティの問題まで、極めて多様です。こうした問題を考えることは、21世紀を生きる上で重要なヒントを与えてくれます。茨城大学の特色ある学問として、沢山の先輩も学んできました。

私も、教養科目「サステナビリティ学入門」の講義を担当します。あなたも、是非、サステナビリティ学の講義や演習に参加してみてください。

